



新型コロナウイルス感染拡大防止に努めてください！

新しい年、令和3（2021）年がスタートし、早1か月が過ぎようとしています。みなさんは、今年の新たな目標を設定し、順調にスタートを切ったことと思います。今年1年、目標達成に向けて粘り強く努力を重ね、飛躍の年にしてください。

また、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、引き続き**3密**「換気の悪い**密閉空間**を避ける。多数が集まる**密集場所**を避ける。間近で会話や発声をする**密接場面**を避ける」ことを意識するとともに、毎日朝晩、**体温を測って記録**することもお願いします。現在、多くの都道府県で緊急事態宣言が出されていますが、徳島県に住むみなさんも、できるだけ**「不要不急の外出は控え、常にマスクを着用すること、手洗い（手指消毒が有効）、うがいをすること」**も重ねて意識し、**感染予防に努めてください。**

ちょっと一息！“空飛ぶ魚”の話をしませう……。



みなさんは、羽根のついた魚、トビウオを知っていますか？羽根とは書きましたが、正確には胸びれを大きく広げて飛ぶ魚がトビウオです。トビウオは、一般的に陸地に近い沿岸部に、また、海の表層近くに生息し、動物プランクトンなどを食べる魚です。ときに水上に飛び出して、海面すれすれ（海上3～5メートルの高さ）を猛スピードで滑るように飛びます。100メートルくらいは当たり前飛び出すことができ、速度は時速35～70キロメートルともいわれています。自動車並みの速さで飛ぶことができるようです。トビウオは、世界中で約50種類いると言われ、日本近海では、そのうちの20種類が知られています。普段、なじみのない魚ではありますが、刺身や干物、料理の出汁（アゴ出汁）としてもよく使われています。（九州ではトビウオを「アゴ」とも言い、小さなトビウオを干して焼いたものを料理の出汁として使っています。）

それでは、なぜ、トビウオは空を飛ぶのでしょうか？それは主に、マグロやカジキ、シイラなどの大型魚から逃げるためといわれています。トビウオは、海の中で時速100キロメートルの速さで泳ぐマグロには到底かなわないことから、進化の過程で胸びれが発達し、海中から飛び出して食べられないよう身を守っているのです。その結果、空が飛べるようになったというわけです。

話は変わりますが、みなさんは小学校時代に「スイミー」の話を知ったことと思います。広い海の中、楽しく暮らす小さな赤い魚の兄弟たちに混ざって、一匹だけ真っ黒な魚がいた。それが「スイミー」でした。ところがある日、お腹を空かせた大きなマグロがやってきて、魚たちを一匹残らず飲み込んでしまいます。逃げられたのはスイミーだけ。（略）小さな赤い魚が集まって群れをなし、一匹の大きな魚として泳ぐシーン。黒い体のスイミーは目となり、みんなを引っ張る……。

これは、大きな魚に似せて身を守る方法の一つといわれています。水族館で小さなイワシが群れをなして泳いでいる姿を見たことがあると思います。小さな魚は小さな魚なりに身を守る力を身につけているのです。

私たちの住む地球上には、動植物を含めて何百万種もの生物が存在しています。それぞれの種は自分の命を守りつないでいくために、計り知れない不思議な力を備えていることを空飛ぶ魚トビウオとスイミーを例に紹介してみました。自然や生物の偉大さの一端に触れてもらえたら幸いです。

のぼり 幟 を作成！ 交通安全マナーアップ作戦!!



昨年、登下校中の交通事故が多数発生したことを受け、「緊急事態宣言」を2回発出しました。12月「交通安全マナーアップ作戦」の一環で作成した、各クラスによる「きたじま ヒヤリハットエリア」に引き続き、今回は、幟を2種類作成し、「命を守る行動」を呼びかけます。**マナーアップでかけがえのない大切な命を守りましょう！**